

ANTIIFREEZING COMPOSITION FOR WATER MIXED IN FUEL TANK

Patent number: JP54155985
Publication date: 1979-12-08
Inventor: ISHIHARA MASATOSHI; NAKAMURA TADAYOSHI
Applicant: DAIHATSU MOTOR CO LTD
Classification:
- **international:** C10L1/182; C09K3/00; C10L1/18; C10L1/185;
C10L1/10; C09K3/00; (IPC1-7): C09K3/00; C10L1/18
- **european:**
Application number: JP19780066155 19780531
Priority number(s): JP19780066155 19780531

Report a data error here

Abstract not available for JP54155985

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫公開特許公報(A)

昭54-155985

⑬Int. Cl.²
C 09 K 3/00
C 10 L 1/18

識別記号 ⑭日本分類
102 13(9) B 53
18 F 1

⑮内整理番号 ⑯公開 昭和54年(1979)12月8日
7229-4H
6794-4H
⑰発明の数 2
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑲燃料タンク混入水の氷結防止用組成物

⑳特 願 昭53-66155

㉑出 願 昭53(1978)5月31日

㉒発明者 石原正利
池田市桃園2丁目1番1号 ダ

イハツ工業株式会社内

㉓発明者 中村忠義
池田市ダイハツ町1番1号 ダ
イハツ工業株式会社内
㉔出願人 ダイハツ工業株式会社
池田市ダイハツ町1番1号

明細書

1 発明の名称

燃料タンク混入水の氷結防止用組成物

2 特許請求の範囲

1 エチレングリコール系物質、プロピレン
リコール系物質、セロソルブ系物質を一種又
は複数種組合せたものを主成分とする燃料タ
ンク混入水の氷結防止用組成物

2 エチレングリコール系物質、プロピレン
リコール系物質セロソルブ系物質を1種又は、
複数種組合せ更に低級アルコールを添加した
ものを主成分とする燃料タンク混入水の氷結
防止用組成物。

3 発明の詳細な説明

本発明は、たとえば燃料タンクに混入した水
の氷結防止用組成物に関する。

自動車の燃料タンクのような場合には、それ
がほぼ完全に密封されてはいるが、経時的にみる
と、気象条件および燃料の注入方法等によつて差
はあるにしても年間約30乃至60mlの水が燃

料タンク中に混入する現象がみられる。この原因
としては雨天時に燃料を注入するとき、自動車ボ
デイに雨水が入り込む場合、或いは気象条件によ
る湿度および温度変化に伴う燃料タンク内の水蒸
気の凝結等が考えられる。燃料タンク内に混入し
た水は自動車に対して種々の不具合を及ぼすこと
になるが、なかんずく冬期若しくは寒冷地において
燃料系統、特にフューエル・フィルター、およ
び連結パイプ等に氷結現象が発生し、最悪の場合
燃料閉塞を起こし冬期若しくは寒冷地におけるト
ラブルの一要因となつてゐる。

この不具合を解消するために、氷結防止用組
成物として低級アルコール、たとえばメチルアル
コール、エチルアルコール、イソプロピルアルコ
ール等を単独若しくは任意の割合に混合したもの
が市販されている。この市販品のものでは長期間
に亘つて氷結防止する作用は殆んどない。即ち低級ア
ルコールは燃料(たとえば、ガソリン、軽油等が
あげられるが、以下、ガソリンで代表させる。)と
及び水に溶解する性質を有しているため燃料タン

ク底部に滞留している水に溶解する量は僅かであるが、低級アルコールを溶解したガソリンが水面と接触する部分ではその分子中の水酸基が作用し、前述の燃料タンク底部の水に溶解した僅かの低級アルコールと相俟つて氷点降下をもたらすといえる。しかし、何回かのガソリン補充によつて水中に溶解しているアルコールがガソリンに移行してしまい燃料タンク底部には水のみが残る状態になつてしまつからである。

そこで発明者等は上述の問題点に鑑み本発明を完成するに至つた。その要旨とするところは、エチレングリコール系物質、プロピレングリコール系物質、セロソルブ系物質を1種、又は複数種組合せたものを主成分とするもの、或いは、エチレングリコール系物質、プロピレングリコール系物質、セロソルブ系物質を1種又は複数種組合せたもの及び低級アルコールを主成分とする氷結防止用組成物に係り、その狙いとするところは、長期氷結防止性および融氷効果にある。

即ち、燃料に不溶もしくは溶けにくくかつ水

に溶解しやすい物質を主成分とし、水に該物質が任意の割合で溶解したとき水の氷点を降下させるいわゆる氷点降下の原理に着目し、同時に発生した氷をすみやかに解氷する融氷効果をもたせたことにある。

ここで、低級アルコール物質としては、メチルアルコール、エチルアルコール、イソプロピルアルコールが好ましく、单一組成若しくは混合したものであつてもよい。

また、エチレングリコール系の物質としては、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコールが好ましく、单一組成若しくは混合したものであつてもよい。

更にプロピレングリコール系の物質としてはプロピレングリコール、ジプロピレングリコール、トリプロピレングリコールが好ましく单一組成若しくは混合したものであつてもよい。また更にセロソルブ系の物質としては、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノイソブチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテルが好ましく、单一組成若しくは混合したものであつてもよい。いずれにしてもその組成は決め難く、自動車が使用される環境等を考慮して決めればよい。

本発明の長期氷結防止組成物としては、上述の物質をすべて包含することができる。これらの物質による組成比は低級アルコール、たとえばメチルアルコール、エチルアルコール、イソプロピルアルコールを单一または二者若しくは三者の適当な割合で混合で、約50重量%から95重量%までの量を主成分とされ融氷効果はいずれの物質も好ましい。これらの成分にエチレングリコール系の物質たとえばエチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコール、またはプロピレングリコ

ル系物質、たとえばプロピレングリコール、ジプロピレングリコール、トリプロピレングリコール、或いはセロソルブ系の物質、例えばエチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノイソブチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノイソブチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテルを单一または二者若しくは三者の適当な混合で約5重量%乃至50重量%までの量で存在させることができる。

更に前述のエチレングリコール系の物質、プロピレングリコール系の物質、或いはセロソルブ系の物質を单一または二者若しくは三者の適当な混合で50重量%から100重量%までの量を主成分とでき若しくは低級アルコールの物質を約5重量%から約50重量%まで存在させることができある。

本発明の氷結防止用組成物に添加する腐食防止剤としてはアルカノールアミン類、若しくは脂環式アミン類例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、シクロヘキシルアミン等があげられるが、トリエタノールアミン、シクロヘキシルアミンが好ましい。

これらの添加量は、長期氷結防止用組成物の重量に対して0.1重量%乃至2重量%までの添加が好ましい。更に別の腐食防止剤としては亜硝酸塩および硝酸塩類たとえば亜硝酸ナトリウム、亜硝酸カリウム、硝酸ナトリウム、硝酸カリウムがあげられるが、亜硝酸ナトリウム、硝酸ナトリウムが好ましく、これらの添加量は、氷結防止用組成物の重量に対して0.01重量%乃至1重量%までの量で使用される。

更に氷結防止用組成物を構成するものとして老化防止剤が含まれる。その例として、トリアゾール類若しくはチアゾール類例えば、ベンゾトリアゾール、ベンゾトリアゾールアミン塩、メチルカブトベンゾチアゾール、メルカブトベンゾチ

アゾールアミン類があげられるが、ベンゾトリアゾールアミン塩メルカブトベンゾチアゾールアミン塩が好ましい。これらの添加量は、氷結防止用組成物の重量に対して0.01重量%乃至0.5重量%までの範囲で用いるのが好ましい。

本発明にかかる氷結防止用組成物は前述の各成分を混合することによって、簡単に得られる。

次に本発明を実施例にもとづいて具体的に説明する。

実施例1

氷結防止用組成物として次の組成および割合からなる。

組成	重量%
イソプロピルアルコール	7.0
エチレングリコール	3.0
トリエタノールアミン	0.05
硝酸ナトリウム	0.03
ベンゾトリアゾールアミン塩	0.02

この組成物を常温で混合攪拌し、均一な液体とする。イソプロピルアルコールは、ガソリンおよび軽油に分散状態若しくは可溶化の状態で完全に溶解されるが、エチレングリコールはガソリンおよび軽油に全く不溶である。しかし、エチレングリコールとイソプロピルアルコールとの混合比が各々5.0重量%のときは、この溶液がガソリンおよび軽油に溶解するのは約4.0%および約2.0%である。そこでガソリンおよび軽油にイソプロピルアルコールが即完全に分散溶解する。エチレングリコールの重量%は約3.5%以下であり、長期に亘る氷結防止性を考慮するとエチレングリコールは、3.0重量%が好ましい。即ち、融氷効果はイソプロピルアルコールがガソリン若しくは軽油に即溶解することによつて燃料油中に、分散若しくはタンク内壁に付着している氷をすみやかに融解させることによつて燃料系統のトラブルを解消することができる。また燃料油に不溶のエチレングリコールが水に完全に溶解し、水の氷点を降下させる役目をする。しかも何回燃料の注油を行

なつてもそれが燃料油中に分散溶解しないため長期に亘つて氷結を防止することができる。

また参考のために比較例1として次の組成からなる氷結防止用組成物を実施例1と同一条件でテストを行なつた。

比較例1

氷結防止用組成物として次の組成からなる。

組成	重量%
メチルアルコール	9.0
エチルアルコール	1.0
スルホコハク酸ナトリウム	0.01

テスト結果は次のとおりである。
以下余白

性 状 試 験 項 目	實 施 例		比 較 例	
	ガソリン	軽油	ガソリン	軽油
相 溶 性 能	良好	良好	良好	不溶
水 溶 性	ガソリン又は軽油1升中に水を30ml添加し、試料を50ml添加したとき水槽の増減量およびその水槽の凍結温度。	増加量 +15ml +1ml	凍結温度 -1.6°C -0.5°C	+50ml攪拌したとき -5°C 以下
防 腐 性	ガソリン又は軽油1升中に水を30ml添加し、試料を50ml添加する。下槽に入れかえたときの水槽の変化量および凍結温度。	増加量 -1ml	変化なし -1°C	変化なし 攪拌したとき -50°C以下

75℃ x 336 hr air100ml/min の環境下、工業用水 20%ヒ素留水80%、 調整水で試料を 50%に稀釈する。	金属腐 食試験 (mg/dm ²) :JISK- 2234 に準ずる	ハンドメタル 亜鉛メタル 鋼	-0.09 -0.01 ±0.00	ハンドメタル 亜鉛メタル 鋼	-0.83 -0.01 -1.63
	外 銀	合格	不合格		
	体積変化率(%) かたさ変化(HS)	+9.0 -1	+1.2 -2		
	外 銀	合格	合格		
	金属腐 食試験 (mg/dm ²) :JISK- 2234 に準ずる	ハンドメタル 亜鉛メタル 鋼	-0.08 -0.03 ±0.00	金属腐 食試験 (mg/dm ²) :JISK- 2234 に準ずる	-0.05 -0.03 ±0.00
	外 銀	合格	合格		

性 能	性 能	試験でき ない。	2234 (C導する 系ゴム	ダイキヤスト 外観	土100 体積変化率 がたさ変化(PS)	合格	試験でき ない。
			2234 (C導する 系ゴム	外観	+1.0 0	合格	部分的 触解
性 能	性 能	触 水 性	ガソリン又は軽油に水を1滴添加し、一晩で 氷水をつくる。これにて試料を1滴添加したとき、氷が溶解 するかどうかを確認したする。	良 好	良 好	良 好	部分的 触解
性 能	性 能	機 能	54のガソリン又は軽油にそれぞれ試料を40ml入れ 攪拌しながら、さらにも水を40ml加えて-10℃の気 温でガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの始動テスト トをおび触媒への影響をみた。	0エンジン 0エンジン	0エンジン 0エンジン	良好 良好	良好 良好

かくの如く、比較例1は、ガソリンに対して
融水作用はあるがその燃料が消費されてしまえば、
水分を多少除去する作用があつたとしてもその後、
混入する水分に対して氷結を防止する作用はない。
また軽油に対しては不溶でありタンク壁或いはフ
ィルター部分等に氷結した水を融解することは望
めない。

实施例 2

氷結防止用組成物として次の組成および割合からなる。

組成	量(%)
イソプロピルアルコール	7.0
プロピレングリコール	3.0
トリエタノールアミン	0.05
亜硝酸ナトリウム	0.03
ベンゾトリアゾールアミン塩	0.02

参考のために比較例2として次の組成からなる氷結防止用作成物を実施例1と同一の条件でテストを行なつた。

比較例 2

組成	重量%
イソプロピルアルコール	100

実施例 2 は、プロピレンクリコールがガソリンおよび軽油に対して全く不溶であり、イソプロピルアルコールとプロピレンクリコールとの混合比がそれぞれ約 70% および約 30% であればこの溶液はイソプロピルアルコールのみがガソリンおよび軽油に相溶し、プロピレンクリコールは水層にのみ移行する。ガソリンおよび軽油 1 ㍑中に水 30 ml 添加し、試料を 50 ml 添加したときの水層の凍結温度は -15 ℃ であつた。これ更にガソリンおよび軽油で 10 回ずつ洗浄してもその量は変化せず、凍結温度の変化もみられなかつたことから融氷作用と長期の氷結防止としての性状が發揮される。また金属に対する防効果もそれぞれの金属に対して好結果をもたらし、更にエンジン始動テストでも異常はみられなかつた。

一方比較例 2 はガソリンおよび軽油に対して完

全に相溶することから燃料消費によるその後の水分に対する氷結防止作用はみられない。また金属防食では鋼、ハンドメタルイ鉄および亜鉛メタルイ鉄に極端な腐食がみられた。

実施例 3

氷結防止用組成物は次のとおりである。

組成	重量%
プロピレンクリコール	100
シクロヘキシルアミン	0.05
硝酸ナトリウム	0.02
メルカプトベンゾチアゾールアミン塩	0.03

参考のために、比較例 3 として次の組成からなる氷結防止用組成物として、次の組成および比率からなるもので実施例 1 と同一の条件でテストを行なつた。

比較例 3

組成	重量%
エチルアルコール	100
ジエタノールアミン	0.01

実施例 3 のプロピレンクリコールはガソリンおよび軽油に全く不溶であるから水層にのみ移行する。このためタンク壁成いはフィルター部分に付着した水は融解することができない。しかし、これ自体氷結防止性があることから長期の氷結防止組成物として適当である。即ち実施例 3 のものは冬期に入る前に予め燃料タンクに適用量を注入しておけば -10 ℃ 以下に気温が下つても燃料タンク内の水分が永ることはありえない。また、防蝕性、エンジン始動性に関しては不都合はみられなかつた。

一方、比較例 3 のものは、ガソリンには完全に相溶するため燃料消費によるその後の水分に対しては氷結を防止する作用はみられない。なお軽油に対しては白湯の状態で若干溶解するが比重の関係でエチルアルコールの方が軽いため上層に分離することから長期の氷結防止作用は認められなく、金属に対しても極端な腐食現象がみられた。

また、次の実施例からなるものも顯著な効果がある。

組成	実施例		実施例 4	実施例 5	実施例 6
	重量%	重量%	重量%	重量%	重量%
エチレングリコール	5	50	49		
プロピレンクリコール	95				
メチルアルコール		25	30		
イソプロピルアルコール		25	20		
エチレングリコール				1	
モノメチルエーテル					0.01
ジエタノールアミン	0.05			0.01	
シクロヘキシルアミン		0.01			

なお、これらの実施例においても、長期防歫効果がみられるると同時に、防食性、エンジン始動性に関しては不都合はみられなかつた。

このよう組成にしたから単に温水の氷結を長期にわたつて防止するだけでなく、燃料タンクの防蝕性向上にも寄与し、更には燃料タンクに添加するだけで効果が得られるので煩わしさがない。